

人生では定期的に大変なことが起きる。
でも一度乗り越えれば、特別なものと思わなくなってきます。
逃げずに挑戦すれば、必ずプラスになる。



Profile

1967年生まれ。長崎大学経済学部を90年に卒業後、国際証券(現:三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社)広島支店に配属。その後、本社企業部へ異動。97年、ベンチャーキャピタルのJAICこと日本アジア投資株式会社へ転職。99年頃に投資先の一社として、ヴィレツジヴァンガードコーポレーションと出会い、創業者の菊地敬一氏より経営企画室長を任命され、JAICからの出向社員として2000年に同社へ入社。上場に向けた社内管理体制整備の指揮を執り、2003年4月に日本証券業協会に店頭登録銘柄として登録を果たすと同時に、出向が解除され、正式に同社へ籍を移す。同年8月に取締役経営企画室長に就任。2006年8月に常務取締役就任。2010年8月より代表取締役社長へ。

株式会社
ヴィレツジヴァンガード
コーポレーション

代表取締役社長

白川篤典

経済学部(1990年卒)

Atsunori Shirakawa

この春社会に出ていく
長大生が社長に突撃インタビュー!
卒業生である先輩から、
いま学ぶべきことは?



森/本日はお忙しいところ、お時間を頂きありがとうございます。早速ですが、大学時代のことについてお聞きます。どのような学生でしたか?

白川/僕は、大学時代はあまりいい学生ではなくアルバイトに力を入れていて、3つ掛け持ちしていました。働くことが楽しかったんですよ。1か月のうち29日はバイト、1日休み。休みの日に演歌がかかっている焼き鳥屋に一人で行くのが、大人になったようで嬉しかった。

森/あまりいい学生ではなかったとおっしゃいましたが、今の自分が、その頃の自分にアドバイスをするとしたら、何と声をかけますか?

白川/あまりそういう想定をしたことがないけれど…。子どもの頃から「目先の利益は取りに行かない」という考え方をされていて、例えば、仕事を誤魔化して「こうやったらうまくいように見える」ということはしない。実力じゃない一過性のものを手に入れても仕方ない、という考え方でずっときています。大学

時代もそうだったし、社会に出てもからそうです。だから、その頃の自分にも「目先にこだわるな、実力がつかつかないかで判断しろ」と言うと思います。

森/学生の頃から一貫した考えをお持ちだったのですね。次に、社会人になってからのことをお尋ねします。当時は大変だったけれど、振り返ると貴重な経験だったと思えるエピソードはありますか?

白川/具体的なことは思い出せませんが…。私は基本的にネガティブなので、生きてると、ほぼ定期的に大変なことが起きるはずだと思って行動しています。むしろ、起きない方が不思議です。

例えば、赤信号で止まって辛いと思ったことがある人はいないと思うんです。人生における大変なことも、赤信号のようにしょっちゅう起きています。だからまず、大変なことが起きることを心配しないで、それは普通に「来る」ということを覚悟してほしい。

嫌なことは避けようという話は、よく出てくると思うんです。目の前に山があったとして、避けてしまうとその山はずっと越えられない。でも一回越えれば、また同じ大きさの山が来たとしても簡単に越えられるようになります。そうすると大変だと思う山に出会う確率が減ってきます。とはいえ、もっと大きな山が来て、また大変だなと思うんですが(笑)。

社会人になると、必ず辛いことはあります。ただし、辛いことを減らそうと思うならクリアしていかないといけない。挑戦していかないといけない。挑戦すれば自分にとって必ずプラスになります。

困難は「赤信号」である、
目からウロコでした!



経済学部4年

森 恭佑

Kyosuke Mori

佐々木/例えば、会社で周りの人と上手くいかない時はどうされてましたか?

白川/上司や部下と対立することは絶対あります。多くの人は上司や部下のせいにはしますが、これだと絶対にうまくいきません。相手のせいにしても、自分の実力が伸びるわけではない。

どうするかというと、自分がどう対応・行動すべきか、どう接したら部下が成長するのかと考えますね。上司に対しても、自分が進めようとしていることをどうしたら上司もしたくなるのか、こちらが考える。相手のせいではなく、全部自分のせいにした方が、成功する確率は上がりますね。相手に説明する能力・プレゼンする能力を伸ばそうとすると、自分の実力が伸び、結果として組織がうまく回ると考えています。

佐々木/白川社長は、新たに社会人となる人には、何が求められているとお考えでしょうか?

白川/最初は一生懸命仕事するということがいいと思うんです。でも、3年経ったら、上司が期待することの数倍の仕事をしなくては



工学部4年

佐々木 朋哉

Tomoya Sasaki

自分を変えることで相手を変える、
意識してできるようにしたいです。



発想の転換や新しい発見への挑戦があつてこそその成長なんです。

多文化社会学部4年
根本 碧生

Aoi Nemoto

いけないと思います。

僕は常に、「相手の100の要求に対して、300から500の成果を出すためにはどうしたらいいんだろ」ということを考えています。こ

れは教えられたこと以外の工夫をしないと、まず無理なんです。全く違うアプローチでいかないと。

最初は難しいと思いますが、3年経ったら常にそう考えて仕事をした方が良さ。105の成果は「改善」の発想でしかないけれど、300にしようと思ったら全く新しい発想や発想の転換が必要なので、それを考えることで仕事の能力がついていくと思います。

佐々木／新しいこと、人と違うことをしようとするリスクもあるかと思いますが、やってみようと思判断するときの基準はなんですか？

白川／「失敗したとしても身につくものがあるかどうか」です。やって身につくのであれば、成果が出なかったとしても気にしなくていい。

本当の実力がついてるなら、一つのところで失敗しても、どこかでそれが役に立つと思います。

佐々木／仕事をしていて常に「次はこういう能力が必要だから、そのためにはこれを」というようにものごとを進めていっちゃったのですか？

白川／そこまではあまり考えられないですね。そこまでやっていると言えればカッコいいですが(苦笑)。

ただ意識していることがあって。人って、人生において重要性がないけれど、緊急性があることをやりがちなんです。一方、人があまりやりたがらないのは、緊急性はないけれど人生で重要性があること。勉強とか運動とかがこれにあたります。これを最初にスケジュールに入れられないといけないのに、みんなすっばかすんです。

特に運動は、若いから分らないかもしれないけど…年をとったら体が動かなくなるから、絶対運動した方がいいと思うよ(笑)。こういうことを意識して、自分に投資をした方がいいと思います。

根本／今のうちから人生における重要性を考える習慣をつけたいです。最後に、これから社会に出る後輩に一言お願いします。

白川／これまで話してきたことと同じテーマですが、人生はラッキーであるわけがない。常に困難は出てくるので、それをどうやって生かしていくのか、それをどうやって人生の糧にしていくのかと考えて頑張ってください。

根本／本日は貴重なお話をありがとうございました。

先輩のお話を心に刻み、
社会に出ても頑張ります!



長大出身の先輩たち



下村 脩 Osamu Shimomura

2008年ノーベル化学賞受賞

薬学部 (旧:長崎医科大学附属薬学専門部)

※掲載五十音順

企業TOP

カネミツ

代表取締役社長
金光俊明
工学部



双日

代表取締役会長
佐藤洋二
経済学部



大日本コンサルタン

代表取締役社長
執行役員
新井伸博
工学部



TDK

代表取締役
会長
上釜健宏
工学部



テレビ長崎

特別顧問
永井譲二
水産学部



上原成商事

代表取締役
副社長
上原晋作
経済学部



TOTO

代表取締役
社長執行役員
喜多村 円
経済学部



ダイソーケミクス

代表取締役
執行役員社長
永松真一
工学部



住友理工

代表取締役
副社長
尾崎俊彦
経済学部



長崎新聞社

社長
才木邦夫
教育学部



十八銀行

取締役会長
宮脇雅俊
経済学部



活躍中の 先輩たち

上田勝彦

水産学部

NHKの「あさいチ」、「林修の今でしょ!講座」等に出演。魚食の伝道師

草場道輝

水産学部

『週刊少年サンデー』にて連載中の水産学部を舞台とした漫画『第九の波濤』の作者

富岡 勉

医学部

衆議院議員。第3次安倍改造内閣では、文部科学副大臣兼内閣府副大臣を務めた

中村明俊

教育学部

『聖水』で第124回芥川賞受賞。ペンネームは青来有一

中村法道

経済学部

2010年より
長崎県知事

野口市太郎

経済学部

2012年より
五島市長

福地茂雄

経済学部

アサヒビール社長・会長、日本放送協会(NHK)会長などを歴任

松尾直子

水産学部

2009年に海上自衛隊初の大型艦の女性艦長となった

渡辺 航

教育学部

『週刊少年チャンピオン』で連載中の人気漫画『弱虫ペダル』の作者